

けいはんな学研都市新公共交通システム 基幹交通 連節バスの導入について

- ◆ 購入：奈良交通株式会社（環境省補助事業）
車両：スカニアボルグレン製 2台



※奈良交通平城営業所に納車された連節バス

諸元：
乗車定員：130名
全長：17,996mm
全幅：2,485mm
全高：3,204mm
導入台数：2台
デザイン：暫定（今後選定）
名称：公募予定

- ◆ 報道機関対象の現地説明会（奈良交通株）実施

日時：平成29年3月23日
(14:00~15:30)

場所：奈良交通平城営業所
(奈良県奈良市左京 6-2-1)

内容：連節バスの概要説明、
車両展示

関西学研都市と駅結ぶ連節バス運行へ 京都府内で初

京都新聞 3/23(木) 18:43配信



京都府精華町で今秋から運行予定の連節バス（奈良市左京・奈良交通平城営業所）

京都府精華町で今秋から奈良交通が運行予定の連節バスが22日、奈良市左京の同社平城営業所で披露された。JR祝園駅・近鉄新祝園駅と関西文化学術研究都市「精華・西木津地区」を結ぶ路線を予定している。2台の車体がつながった連節バスの運行は府内では初となる。

連節バスはスウェーデン・スカニア社製で全長18メートル。標準的なバスより7メートルほど長く、ほろの部分を通じて前後を自由に移動できる。定員は同社の路線バス（83人）より多い130

人。1台約9千万円で、奈良交通は国の補助（半額）を受けて2台導入した。

精華・西木津地区は近年、住民の増加に加えて企業の進出が相次ぎ、朝夕の通勤時間帯にはバス利用客が増えており、府と町が同社に連節バス運行を求めている。駅西側の大型商業施設前のバスターミナルから、けいはんなプラザなどを経て、光台を循環するルートが検討されている。試験運行をした後、早ければ9月にも朝夕を中心に連節バスが運行する。

奈良交通の増本隆史専務は「新車両の導入を地域発展の起爆剤にしたい」と話していた。